

初めてこの歌を聞いたとき、

“なんて軽快で斬新なメロディと詞なんだろう”

と思った。まず曲名がシーハイルと洒落ている。シーハイルとはドイツ語で「スキー万歳」という意味。ゲレンデや雪山でスキーヤー同士が交わす挨拶である。誰でもすぐ覚えられる歌だが、ダークダックスがレコードに入れてから全国的にヒットした。

「シーハイルの歌」

- ① 岩木の下ろしが吹くなら吹けよ 山から山へとわれらは走る
- ② 昨日は梵珠嶺 今日また阿闍羅 煙立てつつ おお シーハイル
- ③ ステップターンすりゃ わわむれかかる 杉の梢の 未練の雪よ
- ④ 心残りを エールにとどめ クリスマニアで おおシーハイル
- ⑤ 夕日は赤々 シュプール染めて たどる雪道 果てさえ知れず
- ⑥ 町にはちらほら 灯ついた ラッセル急げよ おお シーハイル

この詞は地元新聞、東奥日報の記者だった林征次郎さんが、昭和4年にスキーのメッカ、大鰐で合宿中の五所川原農学校スキー部部歌として一晩で作詞された。

一同は一晩かかって歌詞を覚え、翌日は梵珠嶺に高唱しながら登ったという。やがて県内に広がって一番の「岩木の下ろし」が青森では「甲田の下ろし」、野辺地では「烏帽子の下ろし」下北では「釜臥の下ろし」と変えて歌われた。昭和30年代半ばにダークダックスが歌い、新宿の歌声喫茶「ともしび」を拠点に全国へと広がった。

詞のなかの梵珠嶺は五所川原市と青森市境の標高 458m の山。また阿闍羅山は大鰐の近く標高 704m。山スキーのメッカである。ステップターンとは回転するとき、山側のスキー板を少しずつ前に出しながら、ステップする要領で回転する技術。クリスマニアとはノールウェイのクリスマニア（現オスロ）で発達したスキー回転技術。両方のスキーを揃えて回転するパラレル、片方のスキーを開き出しと引きつけて回転するシュテムの二つがある。

不思議なのは昭和4年当時、もうこれらの高度なスキー技術が日本に入っていたこと。名手ハンネス・シュナイダーが、クリスマニアをアルプスで初めて駆使したのが前年の昭和3年だから…。いま梵珠山の麓にシーハイルの歌の歌碑と林征次郎さんの碑が建立されている。

作曲の鳥取春陽(1900～1931)
岩手県出身。街頭演歌師で作詞、
作曲もした。シーハイルの元歌
は彼が17才ごろに作詞作曲した
「浮草の歌」である。

浮草の歌

- ① 三年の昔 故郷を出でて
旅から旅へと さすらう我が身
- ② 昨日は東 今日また西へ
行くへ定めず 浮草のごと
- ③ 流れ流れて 落ち行く先は
何処の国やら 果てさえ知れず
春陽の作曲では「籠の鳥」
「船頭小唄」「すたれもの」
「赤いばら」などがあるがなか
でも「浅草小唄」は大正年間の
大ヒット曲である。

